第2期計画骨子案への御意見等

資料6

ページ	第1期計画からの変更点と趣旨の説明	事前に頂いた御意見等
全体 	● 第3回推進会議で御議論をいただく骨子案は、本来、計画を構成する主要な項目を列挙し、全体の流れをお示しするものですが、第2期計画においては、計画書のスタイルを大きく変更する方針で進めていることから、完成形をイメージやすくするため、最終的な計画案を想定して作成しています(「第3章」及び第4章「4　成果指標(KPI)」を除く。)。 ● 第2期計画においては、全体を通して、できる限り長文を用いず、箇条書きで読みやすい文章量を意識して記載しています。 ● フォントは、誰にでも判読しやすいユニバーサルデザインフォントである「BIZ UDPゴシック」を使用しています。 ● 総ページ数は、35ページ程度(第1期計画の4割弱)を想定しています。 ● 挿入している図表は、より良いものを別途作成の上、差し替える予定です。 ● 計画全体を通して、記載内容に加え、スタイルや受ける印象、文体など、様々な観点から御意見をいただけますようお願いいたします。	● 骨子案(たたき台)については、概ね了ですが、全体的に「DX」の文言がほとんどなかったのが少し気になりました。【西野委員】 ➡ 次の2箇所に「DX」の文言を追加することを考えています。 ・6ページの「Society5.0とは？」の説明をDXを用いたものに修正。 ・5ページの「2　国の動向」の「(2)行政のデジタル化」に「自治体DX推進計画」を追加。
目次 	● 第1期計画では、巻末に「参考資料」を掲載していましたが、第2期計画では、本文中には掲載せず、道HPに別に掲載した上で、「裏表紙」に、当該HPへリンクする二次元コードを記載する予定です。	

第2期計画骨子案への御意見等

ページ	第1期計画からの変更点と趣旨の説明	事前に頂いた御意見等
はじめに 	● 「1　策定趣旨」は、第1期計画では長文であったものからポイントを絞り、この間の情勢変化を反映した記載に更新しています。 ● 第1期計画で記載していた「4　本計画の構成」は、第2期計画の「第2章」の「2 取組方針」と内容が重複することから削除しています。	● 第1期からの流れを汲んでいるので、第2期で修正するのか（できるのか）は議論だと思いますが、①暮らし、②産業、③行政、④データ利活用、⑤基盤整備の構成（流れ）が気になります。具体的には④と⑤が逆だと思っています。描いているイメージが人によって異なるかとも思いますが、①②③を支える基盤があって、はじめてデータ利活用が実現するのではないでしょうか？少なくとも、私の専門分野である水産業においてデータの利活用が進んでいないのは、基盤が整備されていないためであると常々感じています。ひょっとすると、それぞれの分野でのデータの利活用が進んでから、分野横断的な基盤を整備するというイメージなのかも知れませんが、現場視点ではやはり④と⑤は逆に思えます。【和田委員】 ➡ ①～⑤の番号は、各施策の順番（策を施す順番）を示すものではなく、北海道Society5.0の実現に向けて必要となる施策を分野や性質（内容）を基に、5つに区分（柱立て）したものです。 ● 2ページの図ですが、①暮らし、②産業、③行政、④データの利活用、⑤基盤整備と用語を合わせた方がいいと思います。例えば「①暮らし」は図の中では「人・暮らし」になっています。あわせて、「⑤基盤整備」が図のどこに相当するのか不明です。7ページの取組方針の図との整合性も意識した方がいいかも知れません。【和田委員】 ➡ 2ページの図は、構想に掲げる北海道Society5.0（実現後）のイメージであり、構想の文言をそのまま使用しているものであることから、それを明確にするため、次のとおり修正したいと考えています。 ・「1　策定趣旨」の1文目に、「～概ね10年後（2030年頃）の未来社会「北海道Society5.0」（下図）の実現に向け、～」のように「（下図）」を加え、本文と図の対応関係を明記。 ・ 図のタイトルを「北海道Society5.0のイメージ」から「北海道Society5.0構想に掲げる北海道Society5.0のイメージ」に修正。 ➡ 一方、7ページの取組方針の図は、構想に掲げた2ページの図を基に、現行計画の策定に当たり、改めて施策の区分として整理したものです。次期計画においても、この5つの区分については、踏襲しようと考えています。

第2期計画骨子案への御意見等

ページ	第1期計画からの変更点と趣旨の説明	事前に頂いた御意見等
第1章　本道を取り巻く情勢 	● 情勢や動向関係は、直面する道の最重要課題に限定し、第1期計画策定後からこの間のデジタル分野に関する情勢の変化を記載するように変更・修正しています（「大規模自然災害の発生」は、「強靱な北海道づくり」に修正しています。）。 ● なお、第1期計画にあった『計画策定の背景』については、第2期計画であるため割愛しています（冒頭『はじめに』に『1　策定趣旨』として記載。）。	
第1章　本道を取り巻く情勢 	● 第2期計画では、第1期計画の「第2章」にあった「2　国の動向」を第1章に移動した上で、 特に、この間の動きが目まぐるしいAI技術を取り巻く動きを新たに「（4）AI政策の推進」としました。また、文章による説明から図による説明に変更しています。 ● 「2　国の動向」で触れる「Society5.0」についての定義や説明を、コラムとして章末に挿入しています。※第1期計画では、「はじめに」の中程に挿入。 ● 第1期計画の第2章に記載していた「2　Society5.0の実現に向けた道の取組」〔内容：（1）「北海道　ICT利活用推進計画」（2018～2020年）の取組、（2）「北海道Society5.0構想」〕は、参考資料の扱い（前述）として、本編から割愛しています。	● 5ページ「第1章本道を取り巻く情勢」「2国の動向」「（3）行政のデジタル化」のなかで、国が2020年12月に策定した「自治体DX推進計画」を追記してはどうでしょうか。（自治体側にとっては、この計画を参考に、各市町村のDX推進計画を策定しています。）【西野委員】 ➡ 5ページの「2　国の動向」の「（2）行政のデジタル化」に「自治体DX推進計画」を追加することを考えています。

第2期計画骨子案への御意見等

ページ	第1期計画からの変更点と趣旨の説明	事前に頂いた御意見等
▎第2章　北海道Society5.0の実現に向けた基本的な方針 	▎第2章　北海道Society5.0の実現に向けた基本的な方針 ● 全体をビジュアル的な記載にして文章を減らしています。 ● 第1期計画を踏襲した5つの柱毎の詳細な説明は、第2期計画であることから割愛しています。 ● 脱炭素に向けた動きが加速する中、それに資するデジタル技術の活用が一層期待されていることから、「2　取組方針」の図には、『あらゆる場面で脱炭素化も意識』して取組を推進することを追加しています（右側）。 ● 北海道Society5.0の概念図については、推進会議での御意見等を基に、次のとおり修正しています。 ・本道が抱える課題を表現した雨雲について、「新型コロナウイルス感染症の拡大」を削除し、「インフラの老朽化」と「サイバーセキュリティ問題の深刻化」を追加、「自然災害の頻発化」を「自然災害の頻発化・激甚化」に修正しています。 ・取組方針に示した、あらゆる場面で脱炭素化も意識して取組を推進することを「脱炭素化の風」として表現 ・2030年頃の未来社会へ向けて架かる虹のアーチには、後半5年の西暦を追加 ● 別添3でお示しした5つの要素に関する現状と今後期待される展開を、北海道Society5.0の実現に向けた追い風と考えています。こうした追い風を踏まえて、第2期計画における基本理念や取組方針、概念図に追記すべき事項など御意見をいただけますようお願いいたします。 ● 概念図については、上記のような微修正とするか、全面改定を要するかについても、御意見等をお願いします。	● 7ページの取組方針の図において、①②③と④、⑤の関係性がわかりづらいです。（2ページの「1　策定趣旨」について提出した意見と同趣旨で、④と⑤が逆。）【和田委員】 ➡ ①～⑤の番号は、各施策の順番（策を施す順番）を示すものではなく、北海道Society5.0の実現に向けて必要となる施策を分野や性質（内容）を基に、5つに区分（柱立て）したものです。 ➡ 取組方針の図については、施策の分野で区分した①～③と、各分野横断的な取組である④と⑤について、相互の関係性がわかりやすくなるよう、図形の表現を工夫する修正を考えています。 ● 8ページの概念図は、第1期のアップデートではなく、全面改定するのが良さそうです。【和田委員】 ➡ 当該概念図は、第2回推進会議での御意見を踏まえ、課題を表現していた雨雲の項目を修正・追加したところですが、更なる修正等を行うか、全面改定するかについて、皆様の御意見を伺いたいと考えています。
▎第3章　北海道Society5.0の実現に向けた施策 	● 第3章については、5つの施策の柱毎に複数の小項目を設け、その小項目毎に「めざす未来社会の姿」、「主な施策」を記載する予定です（別添1の9ページ（左記）は、記載イメージ）。 ● 特に今回、第2期計画に記載する「主な施策」を検討するに当たり、その目標となる「めざす未来社会の姿」について御意見を頂きたいと考えています。第1期計画に掲げた「めざす未来社会の姿」（別添4）を添付していますので、第2期計画に向けて、追記・修正すべき点など御意見をお願いします。 ● なお、御意見の提出に当たっては、別添3でお示しした5つの要素に関する現状と今後期待される展開も参照願います。 ● 第2期計画で設定する小項目の分類や記載する「主な施策」については、第3回推進会議での御意見等も踏まえ、第4回推進会議において素案としてお示しする予定です。	● 「めざす未来社会の姿」の「③行政」に、次の2点を追加。【西野委員】 ・デジタル技術やAI等の活用により業務の効率化を図り、人的資源を行政サービスの更なる向上につなげていく。 ・EBPM（Evidence-Based Policy Makingの略。データなどの客観的な証拠に基づく政策立案）による自らの行政の効率化・高度化を図る。 ➡ 資料5の4ページに「めざす未来社会の姿」の追加案として反映済。 ● 農業分野における推進について、現在基幹的農業従事者が116万人いる中、2040年には30万に割り込むと言われている。また、日本の食の供給基地である北海道は農地割合、生産高の1／4を担っている反面、支える基幹的農業従事者は全国の1／16であり、一戸当たりの生産に対する負担は増加の一途である。今後も北海道に掛かる負担は増加し、食を守るためには大規模化や異業種参入は必須であり、農業分野での推進を明確に示して頂きたい。【川口谷委員】 ➡ 具体の施策の案は、今後、改めて提示します（第4回推進会議予定）。

第2期計画骨子案への御意見等

ページ	第1期計画からの変更点と趣旨の説明	事前に頂いた御意見等
第4章　計画の推進 	● 第1期計画にあった「3　計画の推進基盤」は、「1　推進体制」に統合し、一体的に説明しています。また、「2　道の役割」については、既に設置した「全庁横断的な会議」、法と条例の改正によって対応済みとなった「個人情報とプライバシーの確保」についての記述を削除、量と質の向上が必要とされた「オープンデータ化とデータの利活用」についての記述を追加しています。 ● 指標については、第1期計画では、『第4章　「北海道Society5.0」の実現に向けた施策の展開』の施策の小項目毎に記載していたものを、本章に集約することとしています（第1回推進会議で御説明した青森県の計画などを参考にしました。）。 ● 指標の設定やその考え方、進捗管理における取扱いについては、これまでの推進会議でいただいた御意見の反映等も含め、現在検討中であり、「第3章　北海道Society5.0の実現に向けた施策」の素案と併せて、第4回の推進会議においてお示しする予定です。	● 10ページの右図で、大学研究機関と企業団体の間にも矢印を入れた方が良いのでないでしょうか。今後、リカレント教育や大学から企業へのクロスアポイントメント制度なども含めて、研究機関と企業間の連携をもっとダイナミックに定義していただくことを希望します。【佐々木委員】 ➡ 10ページの図を次のとおり修正することを考えています。 ・大学等研究機関と企業・団体の間の相互矢印に加え、行政機関と道民の間にも相互矢印を追加。 ・大学等研究機関に期待する役割として、箇条書き2文目にリカレント教育等を追加。
裏表紙 	● 【再掲】 第1期計画では、巻末に「参考資料」を掲載していましたが、第2期計画では、本文中には掲載せず、道HPに別に掲載した上で、「裏表紙」に、当該HPへリンクする二次元コードを記載する予定です。 ● 【再掲】 第1期計画の「第1章　北海道を取り巻く情勢変化と本計画策定の背景」の「1　北海道を取り巻く社会情勢」にあった「（7）　SDGsの推進」は、第2期計画では、「裏表紙」へ移動し、その考え方を簡素に記載します。	